

SAIL 'O' 通信 NO. 74

大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2026年1月19日発行

会報目次

1. ボランティアレポート、他
 - ① 外国客船入港歓迎行事
 - ② 第9回メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース
 - ③ 大阪マラソン 2025
 - ④ チリ海軍帆船エスメラルダ大阪港入港
2. 旅行記・イベント参加報告
 - ① 「OSAKA SAILINING EXPO 2025」
 - ② 2025 万博に明け暮れて
 - ③ 小笠原クルーズ変更東京諸島クルーズ
 - ④ 下り酒航海 2025
 - ⑤ お花見によせて
 - ⑥ 忘年会12月21日開催
 - ⑦ 映画「フロントライン」のご紹介
3. その他、連絡事項・情報
 - ① 令和6年度大阪帆船と国際交流の会総会報告
 - ② 令和7年度大阪帆船と国際交流の会総会のご案内
 - ③ 令和8年度役員募集

記事本文

1. ボランティアレポート、他
 - ① 外国客船入港歓迎行事

大阪港振興協会の依頼を受けて、天保山客船ターミナルにおいて、3月20日にノルウェイジャンスピリット、4月24日クイーンエリザベス、6月22日と9月14日にセレブリティミレニウム、10月11日にバイキングオリオン、11月22日にノルウェイジャンサン6隻に対して入港歓迎行事を行いました。従来からの紅白の天幕に加えて、新たに大阪城を背景にした横断幕が製作されたことで大阪入港を印象深くできるようになりました。また、呈茶のための毛氈を敷くために重い椅子を移動するのに苦労していましたが、軽量の木製の長椅子4基が製作され、設営が楽になりました。

活動の課題は、やはり、観光や買物から帰船したときに着付けを希望される方が多く、午後からは休憩する時間もなくなるほど忙しくなります。お知り合いの方で着付けをしてみようと思われる方がおられたらお誘いしてください。(中路さん)

- ② 第9回メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース(2025年4月~5月)

大阪港開港120周年を記念して1987年(昭和62年)に太平洋横断ヨットレースの開催は、大阪市の姉妹都市/姉妹港との交流がこのレースの始まり。2018年までに計8回の開催実績を誇る。豪州メルボルン市で活動するサンドリンハムヨットクラブが大阪との交流を楽しみに協力。南半球から赤道を超え大阪の海を目指す壮大なヨットレースだ。

国内において最大級の外洋ヨットレースで海外からの注目度も高い。

2025 年は特別な年。今回フィニッシュラインは大屋根リングからも望める夢洲沖。日本国際博覧会協会登録の「TEAM EXPO2025」として海から大阪・関西万博を盛り上げた。レース運営からウェルカムイベントまで多岐に渡る準備と運営は、オーシャンレーシングクラブビクトリア (ORCV) が中心となり大阪北港ヨットクラブが市民ボランティアを募って盛り上げ、大阪帆船と国際交流の会 (セイルオー) も一緒に交流を楽しんだ。

海外からのヨットは海に浮かぶパビリオンだったと思う。ボランティア達が創ったメルボルン大阪ダブルハンドヨットレースは市民レベルの国際交流として今も根付いている。次回開催も楽しみだ。詳しくはホームページ・Melbourne Osaka Cup をチェックして欲しい。(高見さん)

③ 大阪マラソン 2025

2024 年 9 月 5 日、大阪マラソンボランティアセンターから『大阪マラソン 2025 (2 月 24 日開催) 団体ボランティア募集』のメールが届き、セイルオー連絡網で会員各位に参加募集のお知らせをしました。翌年のことでもあり参加の可否が不明の方もおられることから、とりあえず、前年同様 15 名の参加者を見込んで 9 月 13 日に団体ボランティア参加申込書をセンターに送付しました。12 月 28 日、ボランティアセンターからボランティア内容と説明会についてのメールがありました。ボランティア内容は、①活動場所・時間：千代崎港通りブロック、08:00～13:30。②活動内容：コース沿道整理 79 区。80 区東側。説明会は、①日時：1 月 11 日 (土) 11:30～12:45。②会場：大阪府咲洲庁舎 44F 会議室でした。吉川さんと澤さんに説明会への出席、説明資料とウェア、キャップの受取をお願いしました。1 月 11 日、両人が説明会に出席したところ、何かの手違いで、79 区 14 名、80 区東側 9 名の参加を依頼され、急遽、参加者の再募集を行いました。2 月 15 日、総会に出席された方には説明書とウェア、キャップを配付し、出席されなかった方には総会議事概要に同封して説明書を送付しました。

2 月 24 日 (月振替休日) 08 時 35 分京セラドーム付近のハグミュージアム前に集合しました。最寄り駅は Osaka Metro 長堀鶴見緑地線ドーム前千代崎駅。事前に 1 号出口から集合場所の写真を送付しておきました。交通規制が開始される 9 時頃までに活動区域でのコーン 48 個、テープ 17 か所 103m の設置を終えました。天気予報より早く 10 時過ぎから小雪がちらつき始めました。寒さの中、参加された皆様、お疲れ様でした。

今年も、『大阪マラソン 2026』が 2 月 22 (日) に開催されます。当会副代表の高見さんが出場します。都合のつく方は、『本田通りとみなと通りの交差点付近』で給食配付を行っているので、いらしてください。

④ チリ海軍帆船エスメラルダ大阪港入港

2025 年 6 月チリ海軍練習帆船エスメラルダ号が入港。

昨年 6 月 14 日 (土) 午前 8 時前、雨の中大阪港の西の彼方に前寄港地のハワイから一カ月近くかけてやってきたエスメラルダの船影が見え始めました。湾内に入ってきた時点でエスメラルダの楽団演奏に合わせ、整列した乗員によるチリ海軍の軍歌 “Brazas a ceñir (帆を張って進め)” の斉唱がありました。1997 年秋以来、エスメラルダの大阪港への入港は 28 年ぶり、久々に再会するエスメラルダ、潮風に混ざって漂うディーゼルエンジンの排気臭、そこに凛々しい制服姿の乗員による歌を聴くと、抑えきれない気持ちの高ぶりを感じ胸がいっぱいになりました。続けて歌われた練習帆船エスメラルダの歌 “Dama Blanca (白い貴婦人)” が終わると、それに応える様に日本側からは岸壁に待機した海上自衛隊阪神基地隊の楽団によって軍艦マーチが演奏されました。さらに接岸時には、チリ軍行進曲 “Septimo de linea (第七連隊)” が歌われました。個人的には、28 年前の寄港中に仲良くなり交友関係が続いていた元乗組員の一人から、「エスメラルダが大阪にも寄港する半年の航海に出ていて、そこに同期の士官が乗船している」と連絡があり私は今回の入港を知りました。そして友人が事前にその士官と Facebook で繋いでくれていたのですが、なんと着岸時に船内から岸壁を撮った写真が送られてきて驚きました。こちらから岸壁から見る船の写真と共に手を大きく振り返信、お互いを認識することができました。当然ですが SAIL

OSAKA'97の時から時代が大きく変わったことを、改めて痛感した次第です。無事着岸後、大阪市長、エスメラルダ艦長の挨拶などのセレモニーを経て、落ち着いてから前述の士官とは対面で挨拶することができました。

翌15日(日)、その士官が甲板で説明してくれて久々のエスメラルダ船上を満喫しました。その後急遽、彼が仲良くしている乗組員仲間と一緒に計4名を奈良にアテンドする事になり東大寺へ。沢山の鹿と大仏さんの大きさに皆さん圧倒され感動されていました。また女性の乗組員の方は大仏様の鼻の穴と同じ大きさの「柱くぐり」にも挑戦、無事にくぐり抜けてご利益を得たことに大喜びでした。その後、一人は大阪のポケモンセンターに行きたがっていましたが、時間的に間に合わないのもう一つのリクエスト、通天閣を案内する事に。展望台からの美しい夜景を見ながら大阪を説明しました。私たちはここでお別れしましたが、彼らは釣り堀のある居酒屋で夕食をとられご満悦だった様です。

17日(火) 出航前夜ということで、仕事を終えてから岸壁に挨拶に向かいました。今までのどの船の時も感じたことですが、やはり出航直前の緊張感がひしひしと伝わってきました。そんな中で親しくなった4名の方とは門限までの最後の一時を共に過ごすことができました。翌日の出航に向けては全乗組員が翌朝4時起床で準備をすること、そして前月にニューヨークで起きたメキシコ海軍練習帆船クウォウテモック号の事故を受け出航時の登艦礼はしないとのお話などを伺いました。

出航当日の18日(水)。甲板上では慌ただしく作業されていましたが、前夜の緊張感あふれる状況とは違い、爽やかさや気合を感じる表情でした。出航時間が近付いて岸壁では和太鼓の演奏がスタート。登艦礼がない寂しさはありましたが、入港時同様、乗組員一同が甲板に整然と並ばれるのを見てお別れの時を実感しました。綱外しが行われ、エスメラルダの楽団による演奏が始まりました。入港時にも歌われたチリ海軍軍歌“帆を張って進め”、続けて帆船歌“白い貴婦人”が整然と並ぶ乗組員の皆さんによって歌われる中、エスメラルダが離岸していき、沖合で自衛隊のエスコート船に伴われて次の寄港地、上海に向けて出航していかれました。整然と並ぶ皆さんの姿が徐々に小さくなり、美しい帆船が見えなくなるまで、いつまでもSail 'O'のメンバーと共に見送りました。その様子は船独特の寂しさがありますね。またの再会を願って港をあとにしました。(北村さん)

2. 旅行記・イベント参加報告

①「OSAKA SAILINING EXPO 2025」

5月31日11時から12時まで、海からも万博を盛り上げるために、帆船「日本丸」をはじめ、「BLUE OCEAN みらいへ」、「Ami」他、50隻の小型ヨットがエキスポ会場南側の海上を航行する海上パレードが行われました。ヨット『サザンクロス』は、小型ヨットの最後尾につき、警戒艇の業務に携わりました。これほど多くのクルーザーヨットを見るのは1983年に大阪港で行われた世界帆船祭以来のことでした。(中路さん)

② 2025 万博に明け暮れて

通期パスと大阪市シニア優待乗車証(夢洲まで50円)を駆使して43回通いました。パビリオンは、イタリア館の至宝「フアルネーゼのアトラス」、フランス館はルイビトンで埋め尽くされた部屋、アメリカ館の宇宙旅行、そして中国館では国力の現在地を見せつけられました。旅行は難しいであろうペルーが美食の国だとは知らなかった。意外にもネパール館が心に刺さった。お釈迦様はインドではなく、ネパールで誕生されたとか。シンキングボール、仏像や香料、神秘的に満ちています。航空自衛隊の展示飛行「ブルーインパルス」、大曲花火、シャインハット((EXPOホール)での団十郎や萬斎のパフォーマンス、島根県岩見神楽「大蛇」降臨も忘れられません。7月~8月はMaturi(EXPOアリーナ)で夏フェス三昧。国内外のアーティストに酔いしれました。(お盆に流行したコロナに感染、おまけです)会場内の休憩所、トイレ、オブジェは無名の若手建築家、アーティストが起用されました。彼ら、彼女たちは、将来きっとビッグになるでしょう。これがレガシー、人材が育つということなのでしょう。(身内のことで恐縮です。東ゲート、「いらっしやい」のミャクミャクは

甥・花岡洋一(個人)人間が手がけました。)師走、ミyak活、万博公式グッズストアを巡っていますが、フェルトのミyak様ぬいぐるみが、手に入りません。(篠原 眞知子さん)

③ 小笠原クルーズ変更東京諸島クルーズ

東京諸島!聞きなれない言葉ですが、三宅島の観光協会に置いてあったパンフレットで目に入りました。大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島。以上は伊豆七島ですが、それに加えて、青ヶ島、八丈島、小笠原を含めて東京諸島と呼ぶようです。

6月19日19時、ヨット『サザンクロス』は八丈島経由、小笠原に向けて徳島港を出港しました。44時間の航海の後、八丈島神湊港に入港しました。翌日には小笠原父島二見港に向けて出港する予定でしたが、台風7号が小笠原に接近していたので7号が通過するのを待って小笠原に向かうことにしました。ところが、7号は遅々として進まず、八丈島到着後3日が過ぎました。台風の勢力が弱かったのも、台風の西側を通過すべく、24日19時神湊港を出港しましたが、黒潮の流れが予想以上に強く一向に南に進みません。速力1ノット。石積ヶ鼻さえも通過できず、神湊港に戻りました。やむなく、小笠原行きを断念して寄港地を三宅島、神津島に変更し、26日神湊港を出港して、三宅島に向かいました。三宅島で手にしたパンフレットが先ほど紹介したものです。その後、神津島、御前崎、志摩浜島、串本を経て7月3日、徳島港に帰港しました。

6日間の停泊で、山々、温泉、八丈八景など八丈島を満喫しました。予定を変更して訪れた、溶岩で覆われた三宅島、穏やかな入り江を持つ神津島は素晴らしい島々で是非再訪したく思っています。(中路さん)

④ 下り酒航海 2025

灘や伊丹の清酒4斗樽をヨット『サザンクロス』に積み込み、神戸港や大阪港から東京港竹芝桟橋や夢の島マリーナまで運ぶ下り酒航海も今回で5回目になりました。11月3日11時、灘浜公園に集まった方々に見送られて神戸港を出港しました。途中、熊野灘では北からの風浪に船体をたたかれ、厳しい航海になりましたが、8日14時、夢の島マリーナに到着し、その役割を果たしました。翌9日14時、雨模様の天候のために会場をマリーナホールに移して鏡開きが行われ、マリーナに集まった多くの方々に杉の香かおる下り酒が振舞われました。鏡開きの前に山崎小夜子さんから「酒造り唄」が披露されました。(中路さん)

⑤ お花見に寄せて

あれから30年が過ぎた。数々の思い出を刻できた「お花見」を振り返る。

「あこがれ桜が見送る」と読売新聞一面の見出し。1994年に元帆船あこがれ(現帆船BLUEOCEAN みらいへ)が大阪港から姉妹都市、中国上海市へ平成の遣唐使船と題して訪中。往路と復路、各々約35名、大阪市のセイルトレーニングシップが青少年を乗せての処女航海だった。

往路、夜航海の東シナ海で低位気圧に見舞われ大きな動揺、真新しいセイルが強風で暴れだしている。畳帆しなければならない。濡れたデッキが鮮やかに光っている。マストトップにあてられた照明あたりはセピア色に見えた。セイルを畳むためにオイルスキン(雨具)を着て、ハーネス(安全帯)をしっかり腰に巻いた。右手は無意識のうちにD金具を何度も確認している。シュラウドをしっかり握りラットラインに足お掛けた。緊張で手足が震え、鼓動は最高潮。天を仰ぎヤード(帆桁)を目指した。横殴りの雨が容赦なく襲う。畳帆作業中、眼下に見える黒い海は、進む船体で急流に見える海面だ。白い波が現れては消える。多くのトレーニーが船酔いの洗礼を受けたことは言うまでもない。友好親善行事で地元の人たちと交流し壮大で有意義なイベントだった。当時船長の奥田忠道氏をはじめクルーとボランティア、そしてトレーニーのチームワークに支えられ白い船体は無事大阪港に戻った。

初めての厳しい航海を乗り越え感動したトレーニー達がまた会いたいと平成の遣唐使航海から一年後の1995年4月の第一土曜日に同窓会と称して集まったのがお花見だ。今年は30回を超える。新幹線や飛行機、夜行バスで参加する遠地の仲間も。セイルトレーニングの枠を超え今も多く仲間が集うお花見になった。大阪城公園で車座のブルーシート。桜の花びらが舞う中、たくさんの笑い声が響く。31年前に体験した航海の一コマを思い出した。

あのとき見送った桜が、今は多くの仲間を迎えている。

(高見さん)

⑥ 忘年会 12 月 21 日開催

なにわの海の交流会 年末懇親会として開催された忘年会。

テーマは、こころ豊かな海づくり。なにわの海で活動する 84 名が一堂に会する。清酒発祥 伊丹にある会場の白雪ブルワリーレストラン長寿蔵は定員を超えた。この会場は一昨年秋の伊丹諸白下り酒～源流からだどる弁才船の航跡～がきっかけ。なにわの海は、江戸時代「摂海（せっかい）」と呼び大阪湾周辺の海域であると代表の藤本増夫氏が開会の挨拶で説明。NPO 海未来のダイバーによる水中環境保護の活動を紹介。大阪・関西万博で活躍した帆船 BLUEOCEAN みらいへ、セーリング EXPO2025、セーラビリティ大阪、第 9 回メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースなど改めて紹介と映像で振り返りながらみんなで交流を楽しんだ。フィナーレは全員で「大阪締め」。会場は盛況のうちにお開きとなり 2026 年に向けた。

(高見さん)

⑦ 映画「フロントライン」のご紹介

「フロントライン」(ワーナーブラザーズ配給)という映画をご存じですか? コロナ禍に実際に起こったダイヤモンドプリンセス号内部でのコロナ発症と DMAT(Disaster Medical Assistance Team)の略で、大規模災害や事故の発生後、おおむね 48 時間以内の災害急性期に、専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調整員(事務員など)で構成される災害派遣医療チーム)の活躍を描いた映画です。ダイヤモンドプリンセスの外観は実際に横浜港に入港したダイヤモンドプリンセスが使用されています。このような映画に実際の船が使用されることは非常に難しい判断と思いますが、それだけ DMAT を始めとした日本の各団体が真摯に対応したことに関するダイヤモンドプリンセスからの感謝の表れだと思います。映画ですので、多少の脚色はあると思いますが、何も情報が無い中で未知のウィルスに立ち向かう DMAT の活躍と、このような状況であっても優雅なダイヤモンドプリンセスの姿を、もし機会があれば、是非ご覧ください。(辻村)

3. その他、連絡事項・情報

① 令和 6 年度大阪帆船と国際交流の会総会報告

2025 年 2 月 15 日(土) 10 時、大阪ボランティア協会のセミナー室(1&2)で総会が開催されました。事業報告、会計報告、役員選任案、新年度事業案、新年度会計案の報告、提案がなされ、拍手で承認されました。役員は全員が再選されました。

② 令和 7 年度大阪帆船と国際交流の会総会のご案内

令和 7 年度総会の開催を下記のとおりご案内いたします。

●開催日時: 2 月 7(土) 10 時から 12 時まで

●開催場所: 大阪ボランティア協会セミナー室

(大阪市中央区 2 丁目 2-20 大手前類第 1 ビル 2 階)

●出欠: 同封の葉書にて出欠を 2 月 1 日(日)までにご返信ください。

③ 令和 8 年度役員募集

●令和 7 年度の役員は次のとおりです。

代表: 中路、副代表: 高見、

事業担当: 遠藤、谷口、田中(孝)、吉川、澤、中津留、土井、

広報担当: 北村、辻村、藤本、井堀、

会計担当: 橋本、秋田、

会計監査古江(敬称略)

●令和 8 年度役員の任期は令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 まで

編集後記 : 昨年は仕事内容が変わり、余裕が無くなってしまい、結局万博にも行けず仕舞いでした。今年は少し余裕が出そうですので、ボランティア活動にも参加したいです。(辻村)